

「館長さん朗報です！」

満面の笑みをたたえたY主任が叫んだ。このコロナ騒動の最中に何事かと問うと、

「排水溝の横でスイカが芽を出しました。」

「スイカなんぞ植えた

覚えはないぞ。」

「ほら、去年館長さんが、ペっぺしたやつです。」

思い出ししました。去年の夏、職員そろってスイカをいただいた時のことです。皆さんフオークで種を取り除いてから、品よくお食べになる。見かねた私がタン力を切ったのです。**あのなー スイカなんてもんは、がぶっと噛みついて、口の中で種をより分けて、種だけをペっぺと吐き出すもんだ。**

さすがに事務室内でペっぺはできず、もぐもぐしながら外に出て、玄関脇の大地に向かって種を飛ばしました。その種が冬を越して、芽を出したのです。健気にも双葉の片方に真っ黒な種の殻を付けて、「我こそは汝に食われしスイカの忘れ形見なり」と名乗りを上げているようです。

思い起こせば少年時代、縁側に座って井戸水で冷やしたスイカに、思い切りかぶりつきました。そして口の中に残った種を、庭に向かって吹き飛ばすと、その種は夏の眩い光の中を、美しい弧を描きながら、飛んで行ったのでした。冷蔵庫もエアコンも、水道さえない時代の、懐かしい思い出です。

一方、公民館の水槽でも、新たな命が誕生しました。メダカが産卵し、孵化した小さな赤ちゃんが、元氣よく泳ぎまわっています。コロナで多くの人命が失われ、人々が右往左往する中で、自然は着実にその営みを続けています。なんだか勇氣の湧く光景です。

「ペっぺスイカ」の方は、わが館の大型新人S嬢が大地から掘り上げ、ポットに植え替えました。この苗が順調に育ち収穫を迎えた暁には、職員一同玄関前に整列し、一斉にかぶりつきペっぺと種を飛ばしてみたい。ささやかな夢です。

「ペっぺスイカ」に幸あれ。